

「がん治療の中心地」目標に

美濃加茂市健康のまち1丁目^{いんこう}で整備が進んでいた「中部国際医療センター」が、来月1日に開院する。竣工式が開かれた今月18日には内覧会もあり、真新しい院内がお披露目された。(渡辺大地)

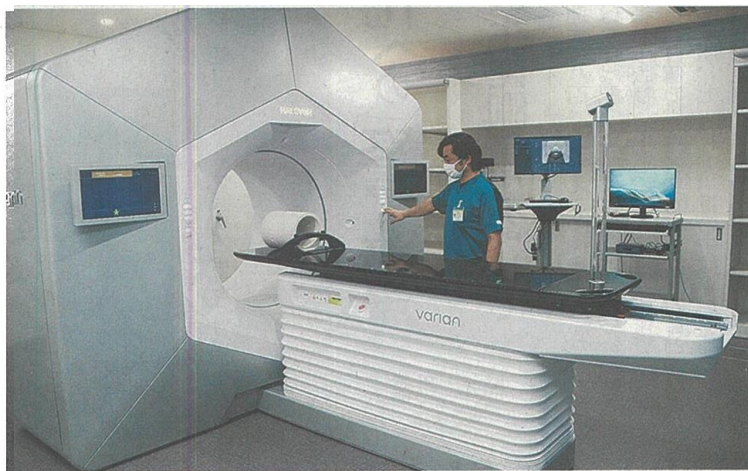
美濃加茂 来月、中部国際医療センター開院

的なつくりにした。また、心筋梗塞や狭心症の治療に必要な血管造影は、専用の部屋を四つ設けた。

正面玄関を抜けたホスピタルモジュールは落ち着いた雰囲気の内装で、高い天井が入るほか、二〇二三年に特徴的。一階中央ラウンジにはおしゃべりできる並び、グラントピアノまである。

新病院は「がん治療の中心地」を目標に掲げる。大垣市民病院に次いで県内二

放射線治療の専用装置導入



導入は県内2例目となる放射線治療装置「ハルシオン」=いずれも美濃加茂市の中部国際医療センターで

常組織への影響を最小限に抑えられる。肺がん、肝臓がん、膵臓がんなどの治療が可能で、小児がんなど一部の疾患は保険適用となり注目を集めているという。

地域の救急医療も引き続き担う。一度に六人まで受け入れられる救急治療室は、感染症対策のため開放

新病院は住宅地や商業地に囲まれた高台に立ち、建物は地上十階建て。一般病棟は四〜九階に配置され、入院患者の面会・談話スペースからは、美濃加茂の街を一望できる。

併設する「みのかも健康プラザ」には市の保健センターやフィットネスなどの

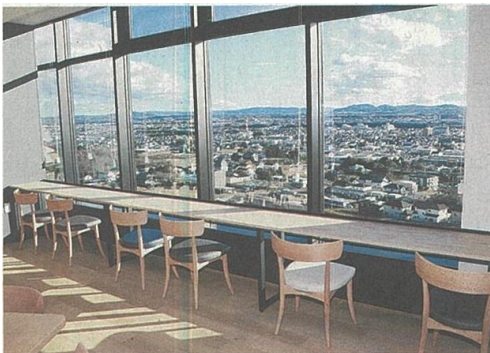


正面玄関を入ってすぐのホスピタルモール

健康関連施設のほか、コーヒーチェーン店「タリーズ」「乃が美はなれ」、TSUTAYA(ツタヤ)も入る。新病院は地域の医療サービスや観光資源を誘客につなげる「メディアカルツーリズム」にも取り組み、外国からの患者受け入れも想定する。竣工式で山田実総理事長は「まちおこし、地域おこしも病院の使命と考えている」と述べた。



救急患者が運び込まれる救急治療室。感染症対策で開放的なつくりとなっている



入院患者らの面会・談話スペース。美濃加茂の街が一望できる